

・市町村が管理する橋梁の症例(実態)を元に、補修工法における効果的な対策等の苦慮されている内容について議論を行い、今後の対応等についてTEC-FORCEアドバイザーからの意見を伺った。

参加者:九州共立大学 まき ずみ 牧角名誉教授、福岡大学 はげ はら 櫛原准教授、福岡県技術検討部会

## ●TEC-FORCEアドバイザーによる症例検討会での助言(令和7年8月20日)



### 【TEC-FORCEアドバイザーからの助言】

〔PC桁〕

・構造など詳細が不明の場合は、安全側に補修を検討すべき。補修が早期にできない場合は、損傷箇所に輪過重がのらないように白線の引き直し等に対応する。

〔伸縮装置〕

・伸縮装置の損傷については、橋長により対応方法を検討すべき。損傷による段差等で交通障害が起こっていれば早期の対応が必要。